# 浜離宮恩賜庭園

はまりきゅうおんしていえん

開園　昭和 21 年（1946）4 月 1 日　　所在地　中央区浜離宮庭園 1-1

開園面積　250,215.72 ㎡（平成 30 年 4 月 1 日現在）







潮入の池

潮入の池と二つの鴨場をもつ江戸時代の代表的な大名庭園。潮入の池とは、海水を導き潮の満ち干によって池の趣を変えるもので、海辺の庭園で通常用いられていた様式です。

旧芝離宮恩賜庭園、清澄庭園、旧安田庭園なども昔は潮入の池でした。しかし現在、実際に海水が出入りしているのは、ここだけです。

この地は、寛永年間（1624～1644）までは、将軍家の鷹場で、一面の芦原でした。ここに初めて屋敷を建てたのは、4 代将軍・徳川家綱の弟で甲府宰相の松平綱重。承応 3 年（1654）、綱重は将軍から海を埋め立てて甲府浜屋敷と呼ばれる別邸を建てる許しを得ました。その後、綱重の子供の綱豊が 6 代将軍（徳川家宣）になったのを契機に、この屋敷は将軍家の別邸となり、名称も浜御殿と改められました。

以来、歴代将軍によって幾度かの造園、改修工事が行なわれ、11 代将軍・徳川家斉のときにほぼ現在の姿の庭園が完成しました。

明治維新の後は皇室の離宮となり、名前も浜離宮となりました。その後、関東大震災や戦災によって、御茶屋など貴重な建造物が焼失したり樹木が損傷し、往時の面影はなくなりましたが、昭和 20 年（1945）11 月 3 日、東京都に下賜され、整備のうえ昭和 21 年（1946）4 月有料公開されるに至りました。なお、国の文化財保護法に基づき、昭和 23 年（1948）12 月には国の名勝及び史跡に、同 27 年（1952）11 月には周囲の水面を含め、国の特別名勝及び特別史跡に指定されました。

画像及び文章素材提供：公益財団法人東京都公園協会